



MAISON JOSEPH DROUHIN NEWS

～メゾン・ジョゼフ・ドルーアン ブルゴーニュ現地ニュース～

from France Bourgogne

みなさん、こんにちは。

ブルゴーニュも本格的な春を迎えました！ もうジャンパーなしでも外出できる温かさです♪ 今年の冬は長くてすっごく寒かっただけに、春の到来は本当に嬉しいです。そうそう、ぶどう畑にも春が来ています。

【写真 畑の野花】

こんなに可愛い野生の花が！紫の花は蘭の一種なんだそうです。

この季節、栽培の世界では植え替えの大切な時期でもあります。栽培の現場監督グザヴィエさんから「今度の金曜に植え替えするから見に来ない？」とのありがたいお誘いをいただき、早速お邪魔してきました。



【写真 畑の野花】

【写真 プティ・モン 植え替え中】

おお！やっています！

場所はヴォーヌ・ロマネのブルミエ・クリュ「プティ・モン」。ドルーアン社のワインですが、土地の登記としては長女で醸造責任者のヴェロニクの所有畑で、よく本人も「私のワイン！」と嬉しそうに語っています。

この区画はリシュブールのすぐ上にあります。かのロマネ・コンティは、この写真では1cmくらい右上に写っています。ちょうど白いワゴン車（赤い丸）の右上です（ワゴン車はラ・ロマネ（向かって右）とリシュブール（同左）の境界線に止まっています）。現実でも100mちょっとくらい、斜面なので走ったらあっという間の距離です。



【写真 プティ・モン 植え替え中】

【写真 植え替え苗@泥の中】

これが植え替えに使う苗です。赤く見えるのは接木をした箇所を保護するパラフィンです。人間で言うときしめ包帯でしょうか。パラフィンは成長すると自然にはがれます。

グレーなのは粘土です。根を粘土に絡ませることで、水分をよく含んだまま土と馴染みをよくします。



【写真 植え替え苗@泥の中】

【写真 杭打ち】

苗の間隔は結構テキトーに植えているのかと今まで思っていたが（ゴメンナサイ）、ご覧のようにピッチリ定規を使っています。まずは苗を植える前に保護となる杭を打ちます。



【写真 杭打ち】

【写真 ワイヤーを引っ張る】

苗と苗の間隔は定規で測っていきませんが、畝と畝の間隔はワイヤーを張って目印にします。写真だとちょっと分かりにくいですが、斜面下にいるグザヴィエさんが斜面上のスタッフとワイヤーを綱引きのように引っ張り合って、ピンと真っ直ぐなラインを作っています。



【写真 ワイヤーを引っ張る】



MAISON JOSEPH DROUHIN NEWS

～メゾン・ジョゼフ・ドルーアン ブルゴーニュ現地ニュース～

from France Bourgogne

【写真 ワイヤーの杭打ち】

ピンとワイヤーが張るとグザヴィエさんの後ろに控えていた別のスタッフがすかさず杭を打ってワイヤーを固定しています。



【写真 ワイヤーの杭打ち】

ドルーアンでは抜いてから植え替えまでに4年かけます。この区画も2006年に抜いた畑です。抜いたあとは線虫（寄生虫などの害虫）を抑える緑肥（マメ科、イネ科などの植物を、収穫せずそのまま田畑にすきこみ、植物と土を一緒にして耕し、後から栽培する作物の肥料にすること）の1種を植えて、土壌を十分に消毒し、休ませます。この穀物「Phacelie」ですが、色々調べても日本名が分かりませんでした。フランス語の説明を読む限り、ガーデニングのマリーゴールドのような役割（線虫の防除）を果たすようです。



【写真 Phacelie】

法律上は抜いた翌年ですぐ植え替えることも可能なのです。でもドルーアンが4年も待つのは「慌てて植えても10年後に線虫がうじゃうじゃで株が病気になっても仕方ないでしょ。」という考えから。確かに人間の寿命と同じくらい長生きするぶどうの樹。4年くらい待っても大切にしたいですね。

【写真 プティ・モン 植え替え済み】

斜面下から見てこの区画のすぐ左隣もドルーアン所有のプティ・モンです。こちらは3～4年前に植え替えをしたのだとか。すくすくとフカフカの土で元気に育っていました。冒頭の野花もこの植え替え済み区画で撮りました。



【写真 プティ・モン 植え替え済み】

さて、保護の杭打ちが終わるといよいよ植付けです！



【写真 植え付け1】

【写真 植え付け1】

鉄の棒をグイッと土に差し込んで穴を作ってあげます。



【写真 植え付け2】

【写真 植え付け2】

棒を使って周辺をほじりながら優しく苗を押し進めていきます。



【写真 植え付け3】

【写真 植え付け3】

最後はそっと表面の土をならして出来上がり！



【写真 出来上がり】

【写真 出来上がり】

植えたあとはこんな感じ。

スタッフの熟練技もさることながら、もともとドルーアンの畑の土壌は空気をよく含んでふんわりしているため、割りと簡単にすると土の中に潜っていきました。



MAISON JOSEPH DROUHIN NEWS

～メゾン・ジョゼフ・ドルーアン ブルゴーニュ現地ニュース～

from France Bourgogne

【写真 苗の間隔】

ブルゴーニュでは1ヘクタール当たり1万本の作付けが一般的で、ドルーアンでも基本的に1万～1万2千本です。この畑にはトラクターが入れず、馬で鋤き入れしているので畝の間隔が通常より狭くて1万1千本になっています。



【写真 苗の間隔】

【写真 スタッフ一同】

午前中の作業が終わったスタッフ一同。お疲れ様でした！
この日はランチを挟んで一日中プティ・モンの植え替えをしていました。



【写真 スタッフ一同】

ところでグザヴィエさん、今日植え替えた畑のワイン、いつ飲めますか？

「最初の3年間の収穫果はワインにしないから、醸造するのは2013年の収穫分かな？ それも若い頃はあまり実をつけさせないようにするから、ほんのちょっぴりね」

ひゃー。

2013年収穫ってということは、それから醸造して熟成して……ってなると、店頭には並ぶのはきっと2015年ですね。2006年に株を抜いてから10年！ さらに、そこから瓶熟させるとなると。。。うーん。美味しいワインを造るには必要なことだけど、飲み手には忍耐力が必要ですねえ。でも期待して待っています！

栽培の現場責任者 グザヴィエさんのお奨めワイン！

メゾン・ジョゼフ・ドルーアン / ショレイ・レ・ボヌ
Maison Joseph Drouhin / Chorey-les-Beaune



今月はショレイ・レ・ボヌについて聞いてみました。植え替え作業にお邪魔した日は、ちょうどフランスの子どもたちのイースター休暇の真っ最中。残念ながら、今年はパリに住む孫娘さんが遊びに来れなかったようですが、そうした家族の集まりにショレイ・レ・ボヌがお奨めだそうです。「色がキレイで、香りもフルーティーな割りにボディはありますね。タンニンもしっかりしていますから、柔らかいワインが好みなら数年寝かせた方がいいです。でも若いうちに飲みたいなら強いお肉料理！特にロースト・ビーフに合いますね。家族が集まってテーブルでみんなでより分けるような、アットホームな食事にはピッタリですよ。」普段は一見いかつい顔立ちのグザヴィエさんも、孫の話になるとメロメロ。「まだ幼稚園だから一緒にワインは飲めないんだけどねー」と言いながら、目尻が下がりっぱなしでした。

参考上代価格（税別）：¥4,000- Vintage：2007

